

プロキシサーバ(P4P)のログ設定

説明

プロキシサーバ起動時にオプションを付与することでログ設定が可能となります。

起動コマンド例

```
# p4p -t target_server:port -r /P4CACHE -p proxy_port -L log -v server=3 -v proxy.monitor.level=2 -d
```

- **target_server:port** : 参照するPerforceサーバ
- **/P4CACHE** : プロキシサーバのキャッシュ先ルートディレクトリ
- **proxy_port** : プロキシサーバのポート番号

※ proxy.monitor.level については、『[プロキシサーバ\(P4P\)のプロセスモニタリング設定](#)』を参照ください



参照ページ

[「Helix Coreサーバ管理者ガイド: マルチサイト展開」 - P4Pオプション](#)

ログ設定オプション

-L	ログファイル出力先を指定できます。
server	ログ出力のレベルを設定できます。

server = 1	ファイル転送のみ
server = 2	すべての処理
server = 3	すべての処理の全トラフィック

※ serverの値は『[プロキシサーバ\(P4P\)のプロセスモニタリング設定](#)』のモニタリングレベルに対応します

ローテート設定

プロキシサーバのファイル履歴を記録するため、ログファイルは次第に肥大化します。
そのため、ローテート設定を推奨しております。

プロキシサーバのログについては、**Helix側でローテート設定することはできません**ので、ご使用の環境に合わせて設定する必要があります。



Linuxでのログローテート設定の一参考例を以下に記します。

logrotate.conf

```
log{
    missingok                #
    rotate 2                 #
    olddir /var/log/p4proxy/bak #
    size 1M                  #
    create 644 p4super p4group # [permission user group]
}
```